

おもな害虫・カビカレンダー

4月～9月

4月
April

5月
May

6月
June

7月
July

8月
August

9月
September

昆虫たちが活発に飛び回る季節です。室内からの漏れた明かりや匂いに誘因され、扉の隙間等から侵入する虫が多くなります。外に光が漏れないように工夫し、窓や扉はしっかり注意して開け閉めしましょう。

カツオブシムシ類



ヒメマルカツオブシムシ成虫1.8～3.2mm

成虫期：成虫は花の花粉や蜜を食べるため、資料被害を与えることはほとんどありませんが、屋外から室内に入る時や屋外に出してあった物(洗濯物、植木等)を室内に運び入れるときは、成虫がそれらにくっついて室内にはいつてきます。室内で繁殖させないためにも十分に点検してから持ち込みましょう。

梅雨の季節になると温度・湿度は、どんどん上昇します。虫にもカビにも過ごしやすい季節です。カビは一旦大量に発生すると、退治することがとても難しいため注意が必要です。

ヒメマルカツオブシムシ幼虫4.0mm内外



幼虫期：幼虫は皮革、毛織物、生糸、動植物質の資料などさまざまな品物を食害します。発見が遅れると被害が拡大することがあります。

ゴキブリ類



ヤマトシロアリ有翅虫4.5～7.5mm

有翅虫：5～7月頃羽アリが飛び出します。種類によっては、日中に飛んだり(群飛)、夜間、電灯に向かって飛んだりします。普段、木材の内部に潜んでいるシロアリを発見するにはよい機会です。



ゴキブリ類

職蟻3.5～5.0mm



職蟻：巣の中で最も数の多い職蟻は、巣の構築・修理、餌の採取・給餌などさまざまな労務を行います。建物の周りに積みっぱなしの材木はないでしょうか。営巣場所になってしまうので注意しましょう。

シロアリ類

チャタテムシ類・シミ類



書籍・古文書・掛け軸等に被害を与えるシバンムシ類は、品物についてたまま室内に持ち込まれるケースが多いです。搬入時の確認が大切です。



チャタテムシ類・シミ類



結露や漏水はありませんか、建物を傷めるばかりか、カビや虫の発生源になることがあります。



クロカビ・ススカビ・黒色酵母様菌等が風呂場や木材等に目立ちます。このカビ類は湿度の高いところが好きなカビです。換気が心がけ、湿度60%以下の状態を維持しましょう。

おもな害虫・カビカレンダー

10月～3月

10月
October

11月
November

12月
December

1月
January

2月
February

3月
March

寒い風が吹きはじめました。暖かい室内へ侵入しようとしている昆虫がいるかもしれません。網戸に破れがないか、窓が開いたままになっていないかチェックしてみましょう。

クロゴキブリ成虫25～40mm



卵鞘

わずかな隙間から侵入し、物陰にひそみ、夜間行動します。積み重ねたダンボールなどは彼らにとって「良い住処」になります。ダンボールを搬入する場合はこっそりとつけられた卵鞘（卵がたくさん入っているカプセル、12～13mm）がついているかもしれませんので、注意しましょう。

外気温と室温の差が大きくなり、ガラス等に結露が発生しやすくなります。結露はカビに必要な水分となり、埃に含まれる養分とともに発育を始めるきっかけになります。ガラス面の水分拭き取りや、除湿機、空調の管理に重点をおき、カビを発生させないようにしましょう。



カツオブシムシ類

カツオブシムシ類

ゴキブリ類

シロアリ類

チャタテムシ類・シミ類

ドアの隙間

チャタテムシ1.0～1.3mm



シミ類8～11mm



チャタテムシ類やシミ類は、空気の流れがなく、よどんでしまっている箇所や、湿度が高く、カビが生えやすい場所に一年中生息しています。乾燥している冬の時期に一度点検してみてもいいでしょう。

シロアリ類

暖房・冷房の吹き出し口を塞いでいませんか。水滴がたまっていないか確認してみましょう。

カビは湿った所にばかり発生するわけではありません。カメラのレンズ(ガラス)や刀(金属)にも被害は及びます。カワキコウジカビやレストリクタスコウジカビ等のカビは湿度65%の環境でもよく発育します。

アオカビ・コウジカビ等はある程度乾燥していても発生してきます。カビは臭いや色素を材質に沈着させてしまうことがあります。湿度管理と栄養物の撤去(清掃)が重要になります。



公益財団法人 文化財虫菌害研究所

〒160-0022

東京都新宿区新宿2-1-8 新宿フロントビル6階

TEL: 03-3355-8355 / FAX: 03-3355-8356

<https://www.bunchuken.or.jp/>